

国語施策の課題に関する論点整理の進め方 (案)

趣旨

文化審議会国語分科会で検討すべき事項（次年度以降5～10年の審議事項）を含め、国語・国語施策の課題に関する論点を整理する。

令和3年度末に中間報告を示し、令和4年度中に最終報告を取りまとめ

中間報告の段階で急ぎ取り組むべき課題とされたものは、次期の審議事項とし課題整理と並行して検討を開始

直ちに審議事項とすることが難しい場合にも、重要な課題については、現状の考え方とともに今後審議に入るための条件について整理。また、国語分科会で扱うべき内容であるか判断が難しい課題についても、重要な事項については指摘

各課題は、従来の事項別の示し方ではなく、日本語による円滑なコミュニケーションに資するという観点から体系的に整理

令3.7	8	9	10	11	12	令4.1	2	3
課題小委		課題小委	課題小委	国語分科会	課題小委	課題小委	課題小委	国語分科会
整理の進め方について		現行の内閣告示について	新たな課題について	審議状況の報告	新たな課題について	新たな課題について	中間報告案の決定	中間報告
現行の内閣告示について		論点整理の基盤となる考え方について	ヒアリング		ヒアリング	ヒアリング		

(そのほか、急ぎ検討すべき課題が生じた場合には、いつでも柔軟に対応)

現行の内閣告示に関する課題の整理 (~10月頃)

現行の内閣告示に関する課題を整理

〔委員からの指摘〕常用漢字表、外来語の表記、送り仮名の付け方、ローマ字のつづり方

対応が必要と判断される場合

直ちに対応すべきか、また、対応が可能か

内閣告示の改定を必要とするか、改定以外の方法で対応できる内容か
(例:「常用漢字表」と「異字同訓の漢字の使い分け例」の関係)

直ちに対応しない場合にも、将来に向けて整理しておくべきことがあるか

内閣告示改定の可否については、事務局でも検討

国語施策に関する課題について「日本語による円滑なコミュニケーション」の観点から論点を整理 (10月頃~)

日本語による円滑なコミュニケーションに資するという観点から、国語・国語施策に関わると考えられる論点を体系的に整理

〔委員からの指摘〕用語(専門用語・外来語)に関する問題、基本語彙の整理、多様化・多層化する社会への言語的な対応、情報機器による影響、言葉のふさわしさの問題、目安としての意味 等

➢ 直ちに対応することが望ましい課題

次期から検討(調査等を含む。)を開始

➢ 中・長期的に検討すべき論点

➢ 対応の可否にかかわらず、将来に向けて整理しておくべき論点

「新しい時代に応じた国語施策について」(平成7年 国語審議会審議経過報告)以来、四半世紀ぶりとなる網羅的な論点整理を実施

中間報告においては、10月までに検討する内閣告示に関する課題についても、「日本語による円滑なコミュニケーション」という観点から改めて位置付ける。

令和4年度

令和3年度の中間報告のうち、直ちに対応することが望ましい課題について、検討を開始

- 内閣告示等の改定を伴わず、対応が可能な課題
 - ・ 審議事項として具体化し、期の冒頭から検討を開始。
- 内閣告示の改定を要する課題の場合
 - ・ 改定の可否について、令和3年度から調査(各府省庁の施策や教育課程との関係)
 - ・ 改定に進む場合には、事務的な調整の後、審議を開始

課題に関する論点整理を継続

中間報告を踏まえ、最終報告を令和4年度内に取りまとめ。

原案作成のための主査打合せ会を設置した上で、今後の国語施策の方向性を打ち出すことを目指し検討。

加えて、論点整理の報告をはじめ、過去の国語分科会の成果物に関して、社会に対するより効果的な周知の在り方についても検討。